

[1] 第3問 実用的文章について

- ① 本来、学問的・文学的な文章の読解力や表現力を深く問うものではなく、「実用」の名の通り、一般的な職業現場での実務能力に近いもので、要領よく情報を処理する能力を問うている。時間さえあれば、中学生でも解くことはできる水準の問題であるが、15分を最大として速やかに解く必要がある。
- ② 文章を中心素材とする点では、あくまでも「国語」であるが、複数素材（文章と図表と選択肢）相互の関係性をつかむことを第一とするので、通常の文章読解や解答訓練で身に付くような、一定の基礎が一般的にあるわけではない。設問ごと、資料ごとに解くための行動は異なるのでパターン化しづらい。
- ③ 問い（課題・目的）があつての「資料・情報分析」であるから、評論・小説・隨想の問題とは異なり、落ち着いて問い合わせの要求を先に読み、資料・情報を確認する目的を十分理解してから文章や図表を探る。
- ④ 各選択肢ですぐ図表等のデータに関する正誤判定をするのではなく、選択肢の主に述部内容が、上記③の目的・条件に適しているかどうかで絞り込み、残った選択肢のみデータの正誤判定を行う。

[2] 共通テスト第1問・第2問の注意事項（現代文の基礎学力を踏まえたうえでの注意事項である）

- ① 時間は共通テストの重要課題。実用的文章（大問3）は最大15分として、評論・小説・古文・漢文の効率的な時間配分を意識的に行うこと。評論・小説の読解は、本文だけではなく、後の資料・対話なども含め、それぞれトータル約10分内の読解を堅持する。
- ② 評論・隨想では、具体例・引用・比喩の読解処理（読解法1）が最重要。設問の半数に影響する。
- ③ リード文・注・設問文は、出題者からのヒントメッセージであり、重要な情報が含まれているので精読する。とりわけ、本文の「主題」（～について）や設問の「課題」（～について）は最初に確認する。
- ④ 図表（絵・写真・グラフ・図式等）・資料（短文・法令・ノート等）・対話などは、「本文」との関連を十分踏まえたうえで解答要素を探る。これらは本文の要旨やキーセンテンスに対して、しばしば具体例類（具体例・引用・比喩の類）と同様の関係性を持つ。なお、本文ではなく、特定の設問に付随する資料・文章などは、設問の要求や小問の問い合わせの要求を先に確認し、それに対応した要点・要素を求めるつもりで読む。
- ⑤ 常に本文（資料も）の最終センテンスは要注意である。読解時と関連設問の解答時に精読すること。
- ⑥ 対話では、教師・リーダーとなる生徒の発言に実質的な問い合わせ・課題やヒントがある。最終発言も要注意。対話中の空欄などでは、関係性（「空欄を含む一文」「指示語・接続語」「前後2発言ずつ」）がカギ。
- ⑦ 設問は必ず読解後に前から順に解く。後の設問を解く際に、前の設問の解答過程や内容が参考になるケースが少なからずある。
- ⑧ 選択肢の一つ一つをただ読み込んでいくのではなく、まず正解の必要条件の一つだけでも確定し、それを選択肢①中で特定、もしくは構文的な位置を確定する。そこから、他の選択肢②～④は横一線に該当箇所・内容を①にならって正誤判定していく。
- ⑨ 積極的に正答要件で選択肢を絞り、二択程度で判定が難しくなったら、各述部を集中的に比較してみる。
- ⑩ 選択肢の絞り込み・選別中にかなり微妙であると感じられる選択肢については、無理に正誤判定をしようとせず、「判断の留保」を適切に行い、次の選択肢に進む。選択肢の途中で長くは考え込まないこと。評論・小説の設問は90秒以内で解くのが原則である。
- ⑪ 理由説明問題では、正解候補として残した選択肢について、「選択肢の述部 ⇒ 傍線部の述部」を確認し、理由としての妥当性を検証してみるとよい。
- ⑫ 全選択肢の共通項（語句・構文）は正解の必須要素の明示である。共通項の必要性を考慮して活用する。
- ⑬ 対比構造（AX↔BY）型の選択肢では、メインとサブの項のうち、メイン側の正答条件で先に選択肢を絞る。ただし、小説の「人物像の違いの説明」では、主人公の人物像の正誤判定を後に回すこと。
- ⑭ 「適当でないものを選べ」という設問要求では、明らかに誤り（本文との矛盾）が正解要件である。微妙な選択肢は保留する。本文に明記されてはいないという程度では、「適当ではない」とは言えない。
- ⑮ 運動型設問では、前問（i）との関連性を踏まえて次問（ii）・（iii）を考えると、解きやすくなる。